

第一礼拝次第

メッセージ: 平良善郎牧師

ブレイズリード: 郭永東牧師



前奏			
頌栄	540	会衆	会衆
主の祈り		会衆	会衆
ブレイズ	「いつくしみ深き」 「なんと素晴らしい」	会衆	会衆
聖書朗読	Iコリント15章51～55節 (新約聖書p322)	司会	司会
祈賛	90	司会	会衆
メッセージ	「復活の希望に生きる」	牧師	牧師
祈賛	338	牧師	会衆
献金		会衆	会衆
報栄		司会	司会
頌祝	新生672b	会衆	会衆
祝		牧師	牧師



第二礼拝次第

メッセージ: 伊禮信義先生

司会: 郭永東牧師

メッセージ: 「御心の十字架」

聖書: マタイ 27:38～44(新約聖書p.57)

ブレイズ: 「花も」「御手の中で」

賛美: 新生586 新生437



ファミリー礼拝

お話し: 伊禮信義先生

聖書: ヨハネ 11:1～53

メッセージ: 「ラザロの復活」

<巻頭言>

「沖縄バプテストの始まり」

沖縄におけるバプテストの働きについてはスコットランドのアラン夫人を忘れてはなりません。アラン夫人はベッテルハイムの琉球伝道のために深い関心を持ち、熱心な祈りと献金をささげておりました。ベッテルハイムはハンガリー生まれのユダヤ系プロテスタント宣教師で、1846年英国海軍琉球伝道会宣教師として家族同伴で来沖、波の上護国寺に住み、約8年伝道に努めました。その間、聖書を琉球語に翻訳し、種痘法などの医療技術を伝えたとされています。しかし、琉球王府の厳しい対応で伝道はなかなか進展せず1854年ペリー来航の際、ベッテルハイムは艦隊と共に琉球を後にしました。その後、ペリーは江戸に入り日米和親条約を結び、日本は開国することになりました。

アラン夫人は、ベッテルハイムが琉球を引き揚げてあとも琉球伝道のために祈り続けたのでした。37年の時を経て、神戸においてアラン夫人とバプテスト宣教師のタムソン師が出合い、アラン夫人の沖縄伝道に寄せる熱心さに宣教師会は心を動かされ、ついに沖縄伝道に着手することを決議し、タムソン師も北米バプテスト宣教団に許可を得て、沖縄伝道の道が開かれるようになりました。(「沖縄宣教の歩み」沖縄バプテスト八十年史参照)

1891年(明治24年12月)、相模(神奈川県)出身の原三千之助師是那覇港に上陸、間もなくして那覇の上の蔵町に「沖縄講義所」が開設されました。これが沖縄におけるバプテスト伝道の始まりです。